

今週の株式相場見通し

* 日経平均 23,200~24,000円 TOPIX 1,620~1,700

* 期待材料 菅内閣の政策(デジタル庁、Go To キャンペーン) 5G時代の到来 新型コロナ対策

* 不安材料 新型コロナの感染拡大 地政学的リスク スタグフレーション 信用不安の高まり

米大統領選に関する直近の世論調査によると、9月29日のテレビ討論会やトランプ大統領の新型コロナ感染などを受けて、バイデン候補の支持率が一段と上昇している。政治情報サイトのリアルクリアポリティクスがまとめる世論調査の全米平均では、バイデン候補とトランプ大統領の支持率の差が9.4ポイントとなり、6月以降で最大となっている。バイデン候補優勢との見方が強まり、米国では巨額の財政支出を想定し、太陽光発電など環境関連株や景気敏感株高、金利上昇などの動きが出つつある。バイデン大統領誕生となれば、日本株では米太陽電池メーカーのファーストソーラーを主要顧客とするエヌ・ピー・シー、EVなど向けパワー半導体の需要が拡大している富士電機、米中対立の緩和期待から半導体関連株などに恩恵があるものと思われる。今週は14日に半導体露光装置のASML、15日に半導体受託生産のTSMCの7-9月期決算発表が予定されている。ASMLの決算発表では、EUV露光装置の年間出荷台数を20年は35台、21年は45~50台とする従来見通しに変更がないか、22年~23年投入と見られる次世代露光装置の開発状況などが注目される。TSMCでは最先端半導体の生産状況、ファウエイ向け出荷停止の影響、21年の設備投資動向、技術開発の進展状況などが注目される。9月末に決算を発表したDRAM大手のマイクロンは、ファウエイ向けの減少で9-11月期の売上は落ち込むものの、5Gがけん引しスマートフォン需要は底堅く、ファウエイに代わる顧客を獲得することで、12-2月期の売上回復を想定している。TSMCもスマートフォン向けの代替顧客獲得、データセンター向け半導体の需要増により、ファウエイ向け売上の減少を早期に埋められる見通しを示すか注目したい。(10月8日現在、松本 直志)

今週の予定

	国内	海外
10/12 (月)	8月機械受注(8:50) コスモス薬品(3349)1Q決算 エヌ・ピー・シー(6255)本決算 大阪都構想住民投票 告示	[スウェーデン]ノーベル経済学賞発表 IMF・世銀の年次総会と関連会合(~18日) [米]コロンブスデー(外為、債券市場が休場。 株式、商品市場は通常取引)
13(火)	9月マネーストック(8:50) J・フロントリテイリング(3086)2Q決算 アークス(9948)2Q決算	[中]9月貿易収支 [米]9月消費者物価指数(21:30) [米]アップル特別イベント
14(水)	サイゼリヤ(7581)本決算	20カ国・地域(G20)財務相・中央銀行総裁会議
15(木)	不二越(6474)3Q決算 松屋(8237)2Q決算 ファーストリテイリング(9983)本決算	[欧]EU首脳会議(~16日) ジョンソン英首相が EUとのFTA交渉の期限とする日 [米]第2回大統領候補テレビ討論会
16(金)	菅内閣発足から1カ月 世界食料デー	[米]9月小売売上高(21:30) [米]9月鉱工業生産(22:15)
17(土)	中曽根康弘元首相 内閣・自民党合同葬	[ニュージーランド]総選挙
18(日)	競馬 秋華賞 統計の日	国連安保理決議によるイランへの武器禁輸制裁の期限

出所はロイター、ブルームバーグ、新聞各紙等より、時刻は日本時間(予定)

本資料のご利用にあたり、お客様にご確認いただきたい事項を、本資料の最終ページに記載させていただきました。ご確認の程、宜しくお願い致します。

今週の参考銘柄

しまむら (8227)

東証1部



	19年2月期 (百万円) 前年比	20年2月期 (百万円) 前年比	21年2月期(予) (百万円) 前年比	株価(10/8)	10,460 円
売上収益	545,996 -3.4%	521,982 -4.4%	528,663 1.3%	業種	小売業
営業利益	25,451 -40.7%	22,985 -9.7%	30,889 34.4%	売買単位	100 株
経常利益	26,245 -40.2%	23,855 -9.1%	31,802 33.3%	PER(予想)	20.0 倍
当期純利益	15,996 -46.2%	13,125 -17.9%	19,206 46.3%	PBR(実績)	1.0 倍
EPS(円)	435.2	357.2	522.6	ROE(実績)	3.6 %
配当金(円)	200.0	200.0	200.0	配当利回り(予想)	1.9 %
				担当	多功 毅

* 出所：業績に関する数値は決算短信より

1Q は緊急事態宣言に伴う時短営業及び臨時休業や外出自粛の影響で前年同期比 19.9%減収、1,281 百万円の営業赤字と苦戦したが、2Q は既存店売上高の回復に加えて、在庫適正化による値引き販売の抑制が進んだことで粗利益率が改善し、さらに販売管理費も引き続き抑制された結果、12.6%増収、営業増益は97.0%増益となる17,257 百万円と、V字回復を果たしている。2Q 累計業績が公表計画を大きく上回ったことや9月の既存店売上高が好調に推移していることを踏まえて、通期業績予想については1Q時に発表した0.5%減収、1.8%営業増益計画を1.3%増収、34.4%営業増益へと上方修正している。

注力している短期生産が軌道に乗ったことで、課題であった過剰在庫の改善が大きく進展した。在庫量の適正化が進んだことで、粗利益率の悪化要因となる値引き販売の抑制につながっている。短期生産は売れ筋商品の追加発注にも効果を上げており、販売機会ロスの低減から売上増にも寄与。また、注力しているPBやサプライヤーとの共同開発商品であるJBの強化による差別化も効果を上げている。

下期の初月となる9月の既存店売上高は、残暑の影響で秋冬物の動き出しが鈍かったことや台風10号に伴い九州地方の一部店舗が時短営業、臨時休業となるなか、しまむら業態が11.1%増、アベイル業態が9.7%増、パースデイ業態が20.7%増と揃って好スタートとなった。通期業績のもう一段の上振れに期待したい。

本資料のご利用にあたり、お客様にご確認いただきたい事項を、本資料の最終ページに記載させていただきました。ご確認の程、宜しくお願ひ致します。

説明会より

銘柄 (コード) 市場 株価(10/8)	コメント
アスクル (2678) 東証1部 4,605円	21年5月期1Q決算は前年同期比2.3%増収、102.1%営業増益。消毒剤、マスクなど法人向け通販の需要が好調で、売上、営業利益は過去最高を更新、通期計画も上方修正。オリジナル商品による低価格化や品揃え強化が奏功し、新型コロナによるECシフトの流れを捉え、中小企業中心に新規顧客が増加し既存客の利用頻度も上昇した。個人向け通販のロハコは発送能力の限界を超える需要があり、物流能力を引き上げながら注文に対応している。(松本 直志)
鳥貴族 (3193) 東証1部 1,604円	値上げ以降の業績低迷から回復の兆しが見え始めたなかで、新型コロナが直撃。緊急事態宣言解除後も客数の戻りが鈍く3Qに続き4Qも営業赤字で、通期では23.2%減収、17.4%営業減益。今期業績予想は新型コロナの影響が不透明なため非開示。今後も鳥貴族業態を主軸としつつ、新型コロナで露呈した居酒屋業態の休業、客離れリスクを鑑み、新業態の開発を急ぐとともに米国など海外への展開も強化する計画。来年2月にホールディングス体制への転換を計画。(多功 毅)
ツルハHD (3391) 東証1部 15,050円	影響が不透明とのことで新型コロナ関連商品の需要増を計画に織り込んでいなかったが、1Qについても関連商品の需要は好調に推移しており、売上高は想定を上回る前年同期比7.6%増収。営業利益については、好需要を背景とした粗利益率の改善に加えて、販売管理費の抑制も奏功し20.1%増益。通期計画は新型コロナ関連の需要増加を見込まない一方、インバウンド売上高をほぼゼロと想定した、2.3%増収、0.4%営業増益計画を据え置いている(多功 毅)
テルモ (4543) 東証一部 4,179円	2020年1Qは特に4、5月に新型コロナの影響を受け、待機症例の増加、検査や診断の減少により、主力の心臓カテーテル事業への影響が米国、中国、日本で大きく売上は前年同期比13.9%減、営業利益は同38.0%減となった。日本においては人工心肺装置「ECMO(エクモ)」や体温計の需要が好調であったが減収を補うには至らず。通期見通しとしては、1Qに底打ちし、2Q以降は回復基調を想定。3Qでは前年並みに、4Qでは前年同期比プラス成長と会社は予想。(志田 憲太郎)
アドベンチャー (6030) 東証マザーズ 5,320円	子会社の売却を織り込んだ実質ベースで20年6月期決算は前年同期比2%減収、営業利益は10%減の4.6億円で着地。新型コロナの影響で4Qは赤字に転落したが、その影響がなければ、連結で20億円ほどの営業利益が出せたとの見方を示している。今期計画は未定だが、新型コロナの感染拡大鈍化とGoToトラベルの効果で、航空券やツアー、ホテルの予約が拡大。7~9月は月次で売上30億円、営業利益で1~1.5億円は確保しており、今期は通期で増益を目指す方針。(松本 直志)
ニプロ (8086) 東証1部 1,202円	新型コロナの影響による受診抑制や手術の中止・延期などにより、特に循環器系、整形外科などの診療科製品の売上が減少。一方で、ワクチン関連製品や医薬容器、手袋、マスクなどの衛生管理製品の需要増加があり20年1Qは売上が前年同期比0.8%減、営業利益は同1.6%減となった。当社の主力商品である透析時に使用する人工腎臓「ダイアライザ」は感染症の影響を比較的受けにくいいため、2Q以降も堅調に推移。通期見通しは保守的に出しており達成可能と説明。(志田憲太郎)

いつもあなたのそばで 頼れる金融機関です

やまわ

■ ■ ■ 山和証券店舗網 ■ ■ ■

本店営業部	(03) 3668-5412	〒103-0026	中央区日本橋兜町 1-8
金町支店	(03) 3600-6681	〒125-0041	葛飾区東金町 1-22-9
高円寺支店	(03) 3311-1171	〒166-0003	杉並区高円寺南 3-58-25
大岡山支店	(03) 5754-5523	〒145-0062	大田区北千束 3-28-1 パークホームズ大岡山ラヴィアンコート 1F
巣鴨支店	(03) 3918-6311	〒170-0002	豊島区巣鴨 3-33-2
上板橋支店	(03) 3935-0311	〒174-0071	板橋区常盤台 4-22-12
深川支店	(03) 5600-7891	〒135-0005	江東区高橋 11-1
茂原支店	(0475) 25-1151	〒297-0023	茂原市千代田町 1-6 茂原サンヴェルプラザ 1F



○金融商品取引法に基づく表示事項

◇商号：山和証券株式会社 金融商品取引業者：関東財務局長(金商)第190号
 加入協会：日本証券業協会

◇ご投資にかかる手数料の概要およびリスクについて

- ・国内上場株式等を購入する場合は、約定代金に対して最大1.1990% (ただし約定代金230,000円以下の場合は最大2,750円)の委託手数料をいただきます。
- ・国内上場株式等は、価格の変動等により損失が生じるおそれがあります。また、発行会社の信用状況の悪化等により投資元本を割り込むおそれがあります。商品ごとに手数料等及びリスクは異なりますので当該商品の契約締結前交付書面をよくお読みください。

○山和証券免責事項

- ・本アナリストレポートは、投資の参考となる情報提供を目的としたものであり、特定の有価証券の売買あるいは特定の証券取引の勧誘を目的としたものではありません。投資の最終決定は投資家ご自身の判断と責任でおねがいします。
- ・本アナリストレポートの全部もしくは一部を引用または複製、転送等により使用することを禁じます。

発行 山和証券調査室